

# 患者事例作成ツールを用いた学習デザインの提案

平野 加代子\*, 真嶋 由貴恵\*\*

## A Proposal of Learning Design Using Patient Cases Preparation Tool for Nursing Education

Kayoko HIRANO\*, Yukie MAJIMA\*\*

### 1. はじめに

近年、看護基礎教育では、看護の基本技術の適確な実施ができる能力や、医療技術の進展や社会構造の変化に伴う「看護実践能力」の強化が求められ、看護基礎教育の充実と方向性が示された。平成3年度に11校であった大学数が平成29年度には255校となり、平成29年2月実施の看護師国家試験における合格者のうち看護系大学卒の者の割合は、看護師国家試験では32.5%を占めている。このような看護系大学の急増に伴い、教育水準の維持向上と地域包括ケアシステムの構築、多職種連携・チーム医療の推進、さらなる医療安全の要請などの社会の変化に対応し、看護師として必要となる能力を備えた質の高い人材を育成する必要があることから、大学の学士課程における看護師養成教育の充実と社会に対する質保証に資するための「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」(2017)が取りまとめられた。そこでは、多様なニーズに応えるべく、学生が卒業時まで身に付けておくべき必須の看護実践能力について、修得のための具体的な学修目標が提示されている。

看護実践能力の強化のためには、看護の観点に立った人間の捉え方や生活者として理解したうえで、生活を支援する看護の視点を学ぶ必要がある。

看護過程は、看護を具体的に実践するための方法論の一つである。看護に関する知識と経験に基づき、看

護の対象である人々の健康上の問題を見極め、最適であり個別的な看護を提供するための組織的・系統的な看護実践方法の一つである。アセスメント、診断、計画、実施、評価という相互に関連しあう五つの構成要素から構成され、これらの構成要素は、それぞれが独立したものではなく、連続的なプロセスである(図1)。さらに患者の問題解決まで繰り返される循環的なプロセスである。

看護過程は、看護基礎教育のなかで非常に多く時間をかけて学習している。従来、看護過程の学内における学習では、紙上患者(Paper Patient)が用いられていた。基礎看護学技術のテキストには、看護過程の事例展開で用いられている事例は、A出版社は、成人期男性で胃潰瘍の患者、B出版社は、成人期女性で甲状腺がん<sup>(1)(2)</sup>であった。これらの患者の事例展開について書かれているが、初学者である学生は看護実践の経験がなく、患者像を想像しながら学習することは困難で、さらに看護技術習得では、学生が看護師役、患者役を設定しても困難を生じている<sup>(3)</sup>。

この課題を解決する方法として、模擬患者、OSCE(Objective Structured Clinical Examination)の導入、シミュレータの活用が行われてきた。これらを授業に導入することで、高い教育効果が得られると報告されている<sup>(4)~(6)</sup>。

模擬患者参加型授業では、模擬患者導入にかかる費用や単発的な学習や体験にとどまるなどの課題があ

\* 宝塚大学看護学部 (Faculty of Nursing, Takarazuka University)

\*\* 大阪府立大学人間システム科学研究科 (Graduate School of Engineering, Osaka Prefecture University)

受付日: 2018年2月5日; 再受付日: 2018年5月9日; 採録日: 2018年6月15日